

上総氏と千葉氏

— 両総平氏の展開とその文化遺産 —

6月18日(日)
午前11時～午後4時

千葉県教育会館
千葉市中央区中央 4-13-10

500席 入場無料

主催 千葉氏顕彰会

共催 天台宗南総教区研修所
千葉氏を語る会

講師

川尻 秋生 (歴史学)
早稲田大学教授 文学博士

嶺島 英寿 (中世城郭史)
いすみ市教育委員会

濱名 徳順 (美術史学)
千葉氏顕彰会副会長
天台宗南総教区研修所所長

コーディネーター

片岡 俊陽 (弘行寺住職)
天台宗南総教区研修所

声明公演「法華懺法」午前 11:00～11:45

出演 南総天台宗研修所

* 日本最古の音楽とされる天台声明の公演、悠久の調べをお楽しみ下さい。

講演 午後 12:30～14:10

パネルディスカッション 午後 15:15～16:00

後援：千葉県・千葉県教育委員会、千葉市・千葉市教育委員会
いすみ市・いすみ市教育委員会、一宮町・一宮町教育委員会
睦沢町・睦沢町教育委員会 (シンポジウムのみ)、千葉氏サミット実行委員会

連絡先：千葉氏顕彰会事務局 TEL：090-1254-9143 (鈴木)

日時：令和5年6月18日（日）午前11時～午後4時

会場：千葉県教育会館 千葉県千葉市中央区中央4-13-10 TEL 043-227-6141

問い合わせ先：千葉氏顕彰会事務局 TEL 090-1254-9143（鈴木）



歴史・文化シンポジウム

「上総氏と千葉氏」

NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で注目を集めた上総介広常、昨年いすみ市で行われたシンポジウムにも県内外から定員を超える聴衆が詰めかけ、関心の高さが窺えました。今回はその続編として昨年語られなかった部分を中心に検討する予定です。

具体的には平安末～鎌倉時代の上総氏一族の動向、大武士団に成長した過程や千葉氏との関わりを検討。また、妙楽寺大日如来像（写真）等の上総国内の天台宗寺院の仏像に見る上総氏の文化遺産や、広常や上総一族の館跡を推理・検討する予定です。このことにより、当時の上総・下総の文化や風土の相違点等が明らかになることを期待しています。

シンポジウム講師紹介



川尻 秋生 氏

文学博士。千葉県立中央博物館学芸研究員などを経て、早稲田大学文学学術院教授。『古代東国史の基礎研究』など多くの著作がある。



濱名 徳順 氏

南総教区研修所長。仏教美術、宗教史を専門とする。とりわけ房総の仏像を数多く調査・研究している。『千葉県の歴史』の共著者。

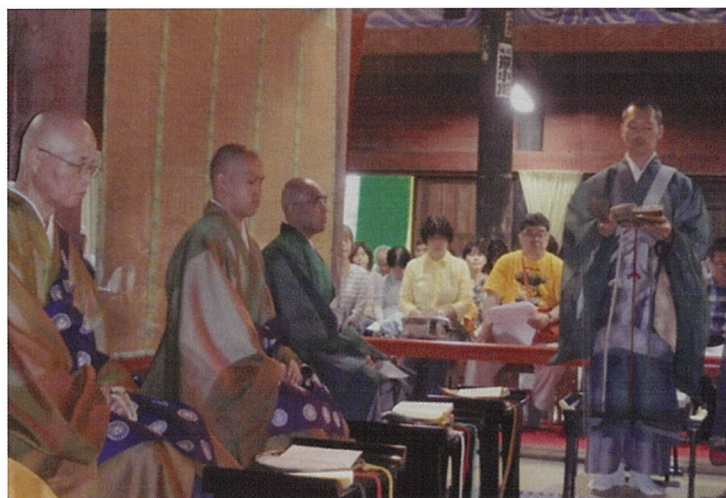
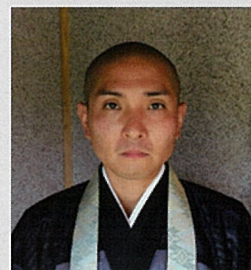
嶺島 英寿 氏

いすみ市郷土資料館学芸員、千葉歴史学会員。房総の中世城郭を研究、『図説 房総の城郭』の共著者。



片岡 俊陽 氏

睦沢町弘行寺住職。大正大学大学院卒、睦沢町文化財審議員。幅広い視点から地域の歴史文化を研究、寺院の活性化に取り組んでいる。今回はコーディネーターを務める。



ほっけせんぼう

声明公演「法華懺法」

午前中には天台宗南総教区研修所の天台声明公演を行います。同研修所はこれまで千葉市美術館、いすみ文化センターなどで公演を行っています。

天台声明は平安初期に慈覚大師円仁により、唐代中国よりもたらされたもので、日本最古の音曲とも言われています。平安王朝文化の一環として盛行し、上総氏・千葉氏が活躍した当時の房総でも盛んに行われていたものと思われます。

ここでは、上総氏・千葉氏一族の鎮魂の意味も含めて、南総教区研修所僧侶が声明を唱えさせていただきます。演目の「法華懺法」は「法華経」に登場する諸尊を前に懺悔するもので、典雅な音律や所作がさながら歴史絵巻を思わせるものです。